

寶相華

宝相華会（同窓会） 会報 No. 70

発行者 小山新造
編集者 藤原正義
発行所 県立奈良高校同窓会
印刷所 共同精版印刷 KK

題字「寶相華」は天平時代の国宝「細字金光明最勝王經」より。（筒井寛秀（中11回）収録）

『ご挨拶』

宝相華会副会長 江島 和哉

（昭和46年卒）



宝相華会会員の皆様には、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

いつも宝相華会並びに奈良高校に格別のご高配をいただき、心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の今頃は九十周年記念事業が春から始まり、秋に向け夏の暑さが増すに連れ、話題&ムードが盛り上

がっておりました。

今年は、百周年に向けてちよつと一休みと云う感ではありますが、これからの九年という歳月は長いようでしょうが、過ぎてしまえば一瞬と感じられる如く短いものになるのでしょうか。

二千二十三年に必ず迎える百周年記念事業へ、皆様のこれまで以上のご鞭撻ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、個人的な話題で恐縮ですが、六月に口演と公演に触れる機会を得ました。まずの口演は浪曲です。

とあることで東大出身の美貌才媛浪曲師の春野恵子さんをお招きすることになり、これまで浪曲を生で聴いたことがなく、それでは良くないと一念発起、口演に通いすっかり『進ぬ電波少年・ケイコ先生』の生徒と化しました。

彼女の師匠は、明治末期から大正にかけ一世風靡した二代目吉田奈良丸を父に持つ関西浪曲界の大御所二代目春野百合子師匠で、その恵子丸刈頭弟子入りエピソードは有名です。

二代目吉田奈良丸は、字のとおり奈良県下市町の出身で、国内外で精力的に大活躍し、桃中軒雲右衛門や京山小円（初代）と共に当時人気を三分していました。

当日の外題は、浪曲レクチャー付き『両国夫婦花火』。百合子師匠直伝の大熱演！！

奈良高校との直接の云々はないけれど、そういう意味で奈良と浪曲は御縁があるかもで、もし機会があれば『生』で浪曲をお楽しみ下さい。

続いての公演は、二週間後に「ムジークフェストなら2014」が開催され、かつての願いによる、九十周年記念式典で記念演奏をしてもらった伊東裕さん（平成二十三年卒）の『世界遺産で聴くチエロの調べ』と銘打つてのチエロ独奏でした。当日は、約百八十名の方々に、聴く度に進化発展し続けるオーラ感じる堂々の素晴らしい演奏を聴いていただけました。

さらに、その週末には伊東裕さんに加え、平成七年卒で東京交響楽団首席チエロ奏者の西谷牧人さんも共演する『セロ弾きのゴーシュ（巧手）』と銘打つての十二人のチエロアンサンブルも、これまた何とも言えぬ深みのある響きの聴き応えある演奏会でした。

いろいろな世界の次代を背負う若い人が次々輩出されることは喜ばしく、音楽、演劇、美術などなどジャンルを問わず、華ある若き奈良高校出身者の活躍を目に触れ耳にされたら、是非是非応援をお願いいたします。

総会予告

平成二十七年 宝相華会総会

日 平成二十七年四月十九日（日）十時開会
時 平成二十七年四月十九日（日）十時開会
所 ホテル日航奈良（JR奈良駅西側）
場 五、〇〇〇円（当日受付で戴きます。
費 （但し、新入会員無料。平成二十年以降の卒業生三、〇〇〇円。）

世話係 昭和四十八年卒
恩師の先生方も来ていただく予定ですので、お誘い合せの上多数御参加下さい。

宝相華会事務局

いあいさつ

学校長 松尾 孝 司

(昭和49年卒)



厳しい残暑も峠を越え、空ゆく雲にも秋の気配を感じるころとなりました。

宝相華会会員の皆様におかれましては、益々御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。平素は本校教育に對しまして深い御理解をいただき、温かい御支援、御協力を賜っておりますこと、心から厚くお礼申し上げます。

さて、今年四月一日、桜の花が咲き誇る中、多くの先生方の温かい出迎えを受け、校長として着任いたしました。私にとりまして、母校、奈良高校での勤務は三度目となります。

昭和六十三年から八年間

は数学科の教諭として、平成十九年度から二年間は教頭として勤務させていただきました。教頭をしておりましたときの校長先生、武村純一先生が、「宝相華」第五十四号に、「三たび、奈良高校へ」と題して着任のあいさつ文を寄稿されておられますが、このフレーズをお借りしますと、私の場合、「四たび、奈良高校へ」ということになります。着任以来、宝相華会総会などの折に、奈良高校でお世話になった恩師、先輩諸氏あるいは同級生の方々から励ましや期待の言葉をいただき、心強く思いますとともに、改めてその責任の重さを感じております。

第一学期の始業式におきまして生徒とともに久しぶりに校歌を歌いましたが、胸に熱いものがこみ上げてくるのを禁じ得ませんでした。本当に

いい校歌だと思っています。校長室には、二番の歌詞が大きな額におさめられています。

真実の自由

責任にめざめて

志操を高め

ゆたけき個性 養ふべく

我等日々はげむ

奈良高校に

ああ われら 光をそへむ

わが学び舎の

同窓生の皆様方が長い歴史の中で引き継ぎ、育てていただいた、「自主創造」の理念、そして、生徒の主体性を重んじるリベラルで文化的な校風を大切にし、生徒たちがここに謳われているような姿勢で高校生活を送り、それぞれが持っている能力、適性を最大限に伸ばし、未来の社会に期待される人として育つよう教育活動を進めていかねばならないという想いを、日々、この額を目の前にして強くしております。

奈良高校の現況についてご紹介いたしますと、現在、全日制課程のみが設置されており、一年生から三年生まで各学年とも、一〇クラス、

四〇〇名の定員となっています。この春の大学入試の結果につきましては、この会報にも「平成二十六年度大学入試合格状況一覧表」として掲載いただいておりますが、例えば、毎年多くの生徒が希望している京都大学、大阪大学、神戸大学の合格者数の合計は、現役生、過年度生を合わせますと一二〇名を超えるなど、本当によく頑張っております。

また、これまでは、近畿圏を中心に地元志向が強かったわけですが、今春の結果をみますと、関東圏の国公立にも視野を広げている傾向も伺えます。一方、部活動におきましても、文化部、運動部とも活発に活動しており、今年は、うれしいことに、

最後にりましたが、宝相華会の益々の御発展と皆様方の御健勝を祈念申し上げますとともに、今後とも母校に對するより一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。



平成二十六年 宝相華会総会・懇親会報告

法徳寺住職 倍 巖 良 明
(昭和47年卒)



左 倍巖良明師 右 大原弘信師

お釈迦様の教えに「諸法因縁生 縁欠不生」という言葉があります、物事は直接的・間接的なさまざまな「ご縁」によって成り立ち、その「ご縁」が一つでも欠けてしまうと何事も生じない。という意味です。

本年度伝統ある宝相華会の総会・懇親会の運営を私たち

昭和四十七年卒業学年が担当させて頂いたという事は、奈良高校を中心とした様々な「ご縁」に導かれていたんだという思いが致します。

かつて何人かの先輩から「還暦の歳の学年が宝相華会の総会のお世話役せなあかんぞ」とお聞きしていましたが、私自身常任理事でありながら、総会、役員会などにほとんど出席していない不良理事でしたので、あまり実感はありませんでした。

それが昨年の一月に事務局から三月の宝相華会役員総会で次年度の総会運営について担当学年からひと言述べてほしいという連絡を頂きました。役員総会に出席しますと、四月の総会にはまとまった人数で参加して、校旗の引き継ぎ、次年度総会運営への決意

表明などしなければならぬと解り、これは大変！とやっとお尻に火が付いたような事でした

そこで宝相華会理事の福西弘君、乾勝巳君、数年前に開催した学年同窓会の幹事をしてくれた、正暦寺の大原弘信君などに相談して、四月の総会に向けて何とか約二〇名の参加者を確保いたしました。

総会当日久しぶりに顔を合わせたメンバーと思い出話に浸る間もなく、次々と進められていく、総会・講演会・懇親会を拝見しながら「来年これを僕たちが中心となつてやっていかんあかんねんなあ・・」とその責任の重ささようやく自覚してまいりました。

懇親会で校旗を昨年度担当の昭和四十六年卒の森本純司先輩から引き継ぎ、いよいよ本年度総会へのカウントダウンが始まりました。

加えて七月に開催される大阪支部総会の運営のお手伝いも努めなければならぬ事も解り、益々プレッシャーは高まるばかりでした。

懇親会終了後、ホテルのロビーで参加してくれたメンバーと今後の対応を相談し、今回の参加者が中心となって「準備委員会」を構成し、まず各クラスから世話人を選定し月一回のペースで会議を開くこととなりました。

五月に第一回「準備委員会」を開催いたしました、まず卒業生名簿の整理を大原君を中心に始める事にしました。幸い数年前に学年同窓会を開催しましたので、その資料に基づいて確認作業を各クラスの世話人をお願いすることにしました。

大阪支部総会に向けては、準備委員会の事務局長の北山雅敏君と宝相華会理事の乾勝巳君が大阪支部の役員会に出席してくれました。役員会に参加した二人からの報告によると、当初はお手伝い程度と考えていましたが、当番学年の私たちが受付、懇親会の進行を大阪支部役員の皆さんと協力しながら担わなければならない事が解り、大阪支部総会に向けて参加要請と二十六年度の総会の告知をする事に

なりました。大阪支部総会の当日は平日の夕方に加え奈良市長選挙の投票日直前という事もあって、なかなか思うように動員が出来ませんでした。が、二〇名余りが参加し何とか責任を果たせたと思います。大阪支部久保会長、橋本幹事長はじめ大阪支部役員の皆様には、ご迷惑をおかけしつつも次年度総会の担当への足掛かりをつけて頂いたことに改めて感謝申し上げます。

総会への準備は、記念講演の講師の選定から始めました、何人かの候補者が浮かんで消えていく中、準備委員会の正暦寺の大原君に、正暦寺の清酒発祥の話をしてもらっては如何かという意見が上がり、その後の会議に大原君が正暦寺での清酒づくりの映像などを使って解説して頂き、満場一致で記念講演を大原君にお願いする事になりました。おまけに懇親会に正暦寺の菩提配(ぼだいもと)正暦寺固有の酒母)の清酒を提供して頂けることになり、目と耳と舌で感じる講演会に大いに期待が膨らみました。

次に四十七年卒の皆さんへの告知として、大阪支部総会への参加要請、年賀状を兼ねた総会の案内、そして三月までに総会の出席確認の葉書を出す事になりました。受け取った時に親近感を持てるように、発信人に各クラスの世話人の名前を入れる事にしました。加えて、準備委員会のメンバーを中心に様々な機会を通じて出来るだけ同級生に声掛けをしていく事に致しました。

次に総会、懇親会、学年同窓会に向けてそれぞれの担当者を決めました。総会の司会を福西弘君、受付の統括を松岡弘樹君と村田省三君、会計を井阪英夫君、懇親会の司会を乾勝巳君、西口陽子（登口）さん、学年同窓会の司会を高野浩文君、米田圭子（山崎）さん、記録を昔取った杵柄で写真部であった山岸和矢君、當麻正巳君にそれぞれお願いすることになりました。

しかし、恩師への連絡、懇親会のアトラクション、スライドショーの制作、ホテルとの打合せ、学校との打合せ、

等々次々と消化していかなければならない課題を前に、「ほんまにちゃんとできるんやろうか？」と一同不安に駆られました。

やっと、具体的に物事が進み始めたのは年が変わってからです。恩師への連絡は、大原君が中心となって当たってくれることになりました。一年から三年までのそれぞれの担任・副担任の先生方をリストアップして連絡にあたり、相沢定男先生、井阪雅宥先生、永田昭一先生、藤村栄雄先生、森崎隆弘先生の五名にご出席頂けることになりました。

懇親会のアトラクションは当時の軽音楽部などで活躍していたメンバーにバンド演奏してもらおう等、様々なアイデアが出ましたが、様々な理由で断念いたしました。そんななか、歌を歌ってもらう候補者でもあった滝垣内好子（佐井）さんが少林寺拳法をやっているという（彼女が学んでいるのは正式には 崇山少林寺 伝統少林拳表演）オープニン

グを飾ってもらっては？という事で、お願いしてみますと、快く了承して頂きました。

新聞各紙への広告掲載、四十七年卒業生への出席案内の発送も済ませ、返信葉書を送る毎日心待ちに致しました。その結果目標には及びませんでした。したが一三〇名の同期生が出席してくれることになりました。毎年の幹事さんがそうであつたと思いますが、準備委員会としてはこの数字が最も

気にかかります。各クラスの世話人の声掛けのお蔭もあり何とか恥ずかしい数字が残せたのではないかと改めて皆さんに感謝申し上げます。



また、必要備品の確認作業や席表の作成などは直前までかかりましたが、宝相華会担当の小南先生や日航ホテルの担当の柳本さん等のお力添えで当日までに間に合わせる事が出来ました。

総会の当日、早朝より準備委員会のメンバーが集まり、それぞれの担当に分かれて準備に入りました。心配していた受付も各世話人の声掛けのお蔭で三〇名が手分けして対応して頂きトラブルもなく進める事が出来ました。

いよいよ、総会が福西君の司会でスタートしました。スムーズに議事が進み、昨年盛大に開催された創立九〇周年記念事業の報告があり、無事総会は終了いたしました。

続く記念講演は、正暦寺住職の大原弘信君が「清酒の発祥」と題して、正暦寺の清酒造りの歴史と現状を、時にユーモアを交えながら勤めてくれ、和やかな雰囲気の中で皆さん熱心に聴いて下さいました。

懇親会は初めての試みであるオープニング、滝垣内さん

の少林拳表演が静かな会場で演じられました。当初皆さんにどう受け止めて頂けるかと心配しておりましたが、万雷の拍手にこの企画をやった良かったと安堵いたしました。

続いて小山会長のご挨拶、ご出席頂いた恩師の先生方のご紹介、そして梅の宿酒造の吉田暁先輩（昭和四十二年卒）ご提供の樽酒で、鏡開きを行い歓談に移りました。宴席では大原君の提供してくれた菩提配の清酒も並べられ各テーブルで歓談して頂きました。

そして東京支部阿部支部長、大阪支部久保支部長からそれぞれ支部の報告が行われ、催しとして上田昌功君が中心に制作してくれた、恒例のスライドショーが始まると、登場するクラスごとに歓声が沸き四十数年前にタイムスリップしたようでした。終盤に入り校歌斉唱、次年度幹事学年に校旗の引き継ぎ、万歳三唱、と進み最後に今回の事務局長を務めてくれた北山雅敏君より謝辞があり、無事懇親会は終了いたしました。

引き続き学年同窓会が高野

君米田さんの司会で、恩師の先生方も交えて始まりまして、各クラスでテーブルを囲み、記念写真を撮ったり、先生方や級友と思いい話に花を咲かせ、あつという間に予定していた時間は過ぎ、最後に今回の準備委員会のメンバーからひと言づつ挨拶してもらい再会を約して閉会。のはずでしたが、まだ話したりないという事で急きょ部屋を取ってもらい二次会へと進んでしまいました。

今回のお世話役の準備委員会も在学当時は接点がありません。最初は少しこちない所もあり皆さんに、

どうなる事かとずいぶん心配をかけました、チームワーク造りと称して何回か会議の後に懇親会を開いたりしました（中には毎回懇親会をする者もありましたが、そのうちに各担当者を中心に準備が進み、皆さんのお力添えで何とか無事に成功裏に終えることが出来ました。改めて奈良高校で学んだという誇りと自覚を感じた次第です。次年度総会・懇親会も四十八年卒の皆様のお世話により、素晴らしい集まりになります事を念じつつ、多くの「ご縁」に只々感謝申し上げます。合掌

オープニングでの中国武術の表演

瀧垣内 好子

（昭和47年卒）

懇親会の冒頭、オープニングをあの様な形で飾ったのは初めてだそうです。総会の会場から出席者が移動してきて、ざわついた雰囲気がか

なか消えないなか、司会者の方が「正面をぐらんください」と言います。すると突然、場内が暗転。正面の金屏風にスポットライトが当たり、そ

の中に何やら中国風の衣装を着た人が登場して見慣れない演武を始めるという趣向でした。

私は舞台の袖にあった衝立の後ろで、胸をどきどきさせながら控えていました。司会者の方が何度か着席を呼び掛けても、場内のざわつきは収まりません。それが、私が登場して演技を始めると急に静かになったので、なんだかちよつと誇らしい気分でした。

表演の後に舞台からご説明しましたが、私がお見せしたのは、中国・河南省の嵩山少林寺を源流とする「伝統少林拳」という中国武術です。まったく同じではありませんが、いわゆる「カンフー」として知られているもので、ジャッキー・チェンやブルース・リー、ジェット・リーなどの映画を通じて世界に知られるようになりました。

実は、懇親会の出し物について、最初はもつといろいろと計画されていたようです。私も出演のお話があったとき、他の出し物もあるとい

うことでお引き受けしたのですが、本番数日前に上がってきた式次第を見ると、私の武術のみが残っていて、しかも懇親会冒頭での出番となっていてではありませんか。どつと冷や汗がでてきました。

幹事を務めていただいた倍巖・法徳寺住職によると、時間の制約が一番の理由だったそうです。また、比較的長時間の会でもあり、中間の時間帯で見慣れない武術を登場させ、場内の雰囲気を引き締めようという狙いもあったようです。

その狙いは的中しました。少林拳は動きが激しい分、表演の時間はわずか一、二分から数分です。あつという間に演技は終わりました。私が息を整えている間に、司会者から、表演者が昭和四十七年卒の六十歳であることが告げられました。そこで場内に「おーっ」というどよめき：六十歳の激しい動きに驚いていたのだらうと、素直にうれしかったのを覚えて

います。私が東京で九年前から師

事している川口賢先生は、一九七五年生まれの三九歳。嵩山少林寺第三十四代帰依弟子で、日本少林拳同盟会代表兼総教練 (<http://shaolin-net.com>) を務めておられます。十代後半から少林寺で修行し、十年ほど前に同盟会を結成されました。今では日本を代表する少林拳の第一人者です。ちなみに、嵩山少林寺とその遺跡群は二〇一〇年に世界遺産に登録され、私もその翌年、先生と仲間たちと少林寺を訪れました。

五十代前半から始めた少林拳ですが、おそらく現在、先生（中国では師父と呼びます）のお弟子さんの中に六十代はおらず、私が最高齢だと確信しています。年齢を重ねるにつれ、一方では無理をして体に負担をかけすぎないようにすることが重要ですが、その一方で、やはり一定の負荷をかけないと体の可動域は広がり、力をつけることはできません。その見極めというか、バランスをとるのが非常に難しいと日々実感しています。

今回の表演は、私が初めて、

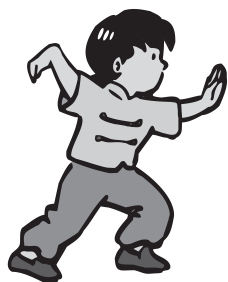
「奈良高校」は私の原点です。奈良高校に合格したことは、県南部の農村から出てきた私にとって、人生の大きなステップになりました。ある意味、すべては「奈良高校」から始まったといっても過言ではないぐらい、大きな出来

少林拳の同門内の発表会以外でお見せしたものでした。そのため、数週間前から夜中も目が冴えて眠れないような、ハイ・テンションの状態が続きましたが、還暦を過ぎてから皆さまに見ていただく機会を得たことは大変うれしく、お声をかけていただいたことに感謝しています。



事だったのです。

それ以降の長いような短いような半生（もう半生をだいぶ過ぎましたが）は、「奈良高校」を起点とした延長線上に、葡萄の房のようにいくつも連なっている存在しています。大切な奈良高校の思い出と同窓生たち、それらが凝縮した同窓会で、しかも「還暦」という第二の人生が始まる二つ目の起点の年に、今打ち込んでいる少林拳をお見せできたことは、私にとって大きな意味がありました。また再び、高校時代と同じように、いつも前を見て生きていきたいと思っています。



限らないポテンシャル

前校長 小林 勢 治

（平成24・25年在職）



言うまでもなく奈高教育の根幹をなす精神は「自主・創造」です。自主性の伸張を目指すのが故に一人ひとりの個性を尊重し、創造性の涵養を目指すのが故に自由な発想や言動を奨励しようとする教育が実践されているのです。そして、こういった教育の在り方は教員ばかりか生徒たちの活動の中にも浸透し、いつの日からカリベラルな校風として個々人の心の中に脈々と受け継がれてきたのであります。

ところで、九十年に及ぶ奈良高校の歴史の中では、時代背景や世代ごとの価値観の傾向によって自主創造の精神の

受け止めにも多少の揺れがあつて、学校の姿が少しずつ変質しながら現在に至っているのは仕方のないところで

す。しかし、その度ごとに微調整をくり返しながら一貫して発展し続けてきた奈良高校には、他校の追隨を許さない限らないポテンシャルを感じてしまうのです。集団力の凋落は瞬間に訪れますが、そのレベルを高める営みには気の遠くなる時間が必要であることは誰もが認めるところで

す。もちろん現在の奈良高校は十分にハイレベルな学校であります。そのポテンシャルの高さを考えれば現状に甘んじることは凋落に等しいと言わざるを得ないのです。

校長として二年間という限られた時間のなかで取り組み内容は、十年後のレベルアップのための布石を打った

にすぎない程度であり、不十分な事柄の多さに反省するばかりです。松尾校長先生はじめ今後を託す先生方には、奈良高校の持つポテンシャルの一つひとつに光を当てながら、是非「日本一の高等学校」を目指していただきたいと期待しております。

結びになりますが、小山会長様はじめ宝相華会の皆様には、校長として終始温かく接していただき、在任中の学校運営に絶大のご理解とご支援を賜りましたことに心より感謝し御礼申し上げる次第です。



奈良高校の思い出

前教頭 上田 英明

(平成24・25年在職)



九〇年を超える歴史と伝統のある奈良高校に二年間教頭として勤務させていただきましたことを光栄に思います。この二年間の思い出は数限りない程あります。その中でも大切にしたい、そして貴重な思い出となっているのが九〇周年記念事業です。生徒たちを中心に据えた素晴らしいものとなりました。特に記念式典においては日本マイクロソフト社長樋口泰行様による記念講演も含め全てが思い出深いものとなりました。これも学校を愛し大切に思っておられる同窓会の皆様のお陰であると感謝いたします。

また、記念誌編纂に際しては多くの皆様からご執筆を頂き無事に出版することができました。刷り上がってきた一冊を手にした時の喜びは今の事のように鮮明に残っています。

平成三年選抜出場以来となる全校生徒による人文字も忘れ難いものとなっています。全校生徒によるライオンキングの鑑賞も圧巻でした。カーテンコールもいつもより多めにやって頂ける程素晴らしいかったです。やるときはやる奈高生を見せて頂きました。奈高生気質は日頃の勉強でも発揮されています。昨年から全教室にエアコンが設置され、教室で遅くまで学習に励んでいる生徒の姿を見るにつけ応援したくなりました。最後に私的なことですが、一年間だけ娘とともに奈高に通

うことができたことです。子どもの入学式や卒業式には、一度も出席することができませんでした。その分を一気にいただいた思いでした。何をとっても奈高での二年間は本当に私にとって忘れ難

い財産を沢山頂いたと感謝いたしております。これからも奈良高校、宝相華会の益々のご隆盛を祈念いたします。本当にありがとうございます。

少子高齢化についての日本

医療法人慈生会 岡村産婦人科

理事長 岡村 吾郎

(昭和22年卒)



私は昭和五年一月十一日生れ、齢八十四才で一応元気で診療の日々を、私は七人兄弟の五番目。家内は齢八十一才で私より元気で診療の事務をして、六人兄弟の五番目で、その頃は兄弟姉妹が一族で五、六人が普通で大変賑やか

であった。

さて日本の人口について話が入りますが、昭和始めから中期までは、どの家族も大家族であり、総人口は七五〇〇万人であった。しかし日支事変を始めて大東

亜戦争(日米決戦)に入り二十才以上の男子は戦争に駆り出され、日本は老人と女性、子どもの世界となった。

そして昭和二十年の敗戦で生きのびた男性が帰還して出生率が高くなった。一九五〇

年(昭和二五)には一五才未満の子どもは総人口の三〇%となりましたが、以後徐々に減少し、平成十一年には十四・九%となり、尚減少傾向が続いています。

そこで奈良市に振り返ってみますと、昭和四十五年度の人口は二〇万人を越えて、昭和五十五年には二九七・九五三人となり、大幅な増加傾向にありましたが、昭和六〇年頃からは微増となっています。

今後の推移について、平成二十二年までは増加が見込まれていますが、人口三八〇・一〇〇人をピークに減少して、平成三十二年には三六五・七〇〇人と減少推計されています。

年少人口は〇才〜十四才が平成十二年十月一日をもって五二・六八三人で昭和六〇年以降連続して減少傾向で平成二十七年には四五・一〇〇人になる。

特によく問題にされます特殊出生率は平成五年一・三四で増減の傾向は全国や奈良県とほぼ変わらない状況にあり

ますが、今年平成二十六年度は一・一四とおおむね減少傾向にあります。

出生数は三・〇〇〇人代前半で推移していますが、減少傾向に見られ平成七年三・三七三人、九・四％、平成十四年三・二五九人となっている。

出生率も同様に低下が見られ、平成十年・九・六、平成十四年は人口千人あたり八・六人で、全国、奈良県よりも低くなっている。

未婚率は女性は二十代後半は昭和五十五年は二・四％から平成十二年には五八・五％へと二十十年間に二・五倍以上になっている。又三十才代前半も昭和五十五年七・七五％が平成十二年には二七・一％に上昇している。

男性も二十五～二十九才までは昭和五十五年には四九・七％で平成十二年には六九・二％に、三〇～三十四才が平成五十五年一五・二％が平成十二年は三六・九％と上昇しています。

我が国の平均初婚年齢は平成二十四年には、男性が三〇・八才、女性は二九・二と

なっていて、出産時の平均年齢も平成二十四年の第一子出産時の平均年齢は三〇・三才になっている。

最後に日本の総人口は西暦二〇〇〇年の一二・八〇六万人のピークから急速に下降し、西暦二〇二〇年のオリニピックまでには一・四〇〇万人減少し、二〇八二年には六四〇六万人と現在の半減になる推計している。

従って日本経済に影響し、人材不足により労働者も減少、故に会社や組織が消えてゆくパターンになる一方客も減少する。このパターンにてこれからの三十年で仕事が消え職業がなくなると云う出来事になる。例えば大型百貨店、スーパーが閉鎖、交通機関も利用者減少、大学経営も苦境、人も物もすべて日本の前から消えさり何処にも逃げ場がなくなる。

日本人口が減少したのは前年期より二四三・六八四人で三十九府県で北海道二九・六三九人でトップ次いで新潟、静岡県で、人口の増加は大都市圏へ（東京）への

人口流入のみである。

六十五才以上が人口を占める割合は、全国で二四・九八％、最高は秋田の三一・二三％で、沖縄は一八・一％で最少だった。

人口激減のニッポンではこんな事が起きる！！

宅配便が届かず！！ゴミは収集してもらえない！！新幹線は一時間に三本！！葬式は出せない！！年金は消滅！！

したがって、人口が減少しないように安定させるには、

日本の土木建築工事の技術革新に思う

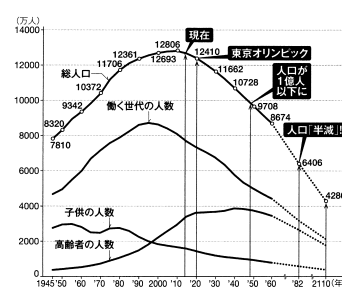


昭和三十三年に奈良高校を卒業した我々は昨年で卒業

女性が「平均で二・〇七人」の子どもを産む必要がある。

（資料は国勢調査、週刊現代参考）

日本の人口が激減していく



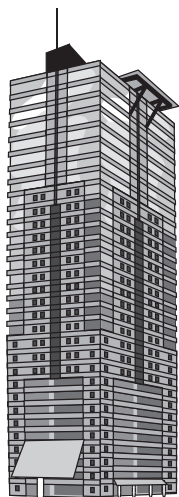
田 出 宣 司

（昭和33年卒）

五十五になった。昨年の六月に卒業五十五周年同窓会が懐かしい母校跡「春日野荘」で実施され、約九〇名の同窓生が顔を揃えた。しかしながら物故者も多い。我々が実社会に飛び出したころは高度成長の幕開けの頃であった。昭和

三十九年に東海道新幹線が開業し、東京オリンピックが開催された。当時の日本は未だ貧しく名神高速道路や黒四ダムは世界銀行からの借り入れである。しかし今や日本は世界に冠たる債権国になっている。私の専門は建築であるが、電源開発のコンサルタントに勤め、東南アジア中心に水力、火力発電所建設を担当した。まず昭和三〇年代の建築部門であるが、関東大震災で無被害であった丸ビルの高さが地上百尺あったところから、長年建築の高さ制限が百尺（31m）であったが、東大武藤博士による霞が関ビルが高さ制限百尺を超える超高層ビルの幕開けであった。現在日本各地の都市で高層ビルは普通に見られるようになった。また、制震や免震構造が開発され、高層マンション建設も華やかだ。地震国での超高層ビルの開発は大変苦勞の連続であった。話題の東京スカイツリーは、五重塔の制震構造を採用している。阪神淡路大震災で古い家屋やビルが多数倒壊し犠牲者を出したが、東日本大

震災では津波による被害は甚大であったが地震動による建物被害は極めて少なかった。これも建築耐震技術の進歩の賜物である。土木技術については狭い国土に新幹線網が敷かれこれほど過密な高速鉄道網持つ国は日本以外にないであろう。本四橋はじめ長大スパンの橋梁も世界に誇れる技術である。青函トンネルで開発された海底トンネル掘削技術は、英仏ドーバー海峡にも応用され、昨年開通したトルコ・イスタンブールの海底トンネルも日本のゼネコンにより施工された。今や日本の土建技術は世界最高と言っても過言ではない。福島原発事故を経験したが、日本の重電技術はこれまた素晴らしい。日本の開発した超々臨界圧石炭火力は世界最高の熱効率を誇り、また付属する環境技術もほぼ完璧である。最近中国の



PM2.5が問題になっているが世界に向けて日本の石炭火力技術が貢献してほしい。また日本のエネルギー不足を助けるかもしれない日本海のメタンハイドレートの開発が成功すれば、これまた日本のお家芸のガス焚コンバインドサイクル発電が大いに活躍し、それこそ原発に頼らない電力供給が可能となるであろう。近年日本の輸出はサムスンをはじめ韓国、中国に押しまくられているが、中韓はまだ高性能の重電技術を輸出できない。日本の技術の更なる海外展開を望む。日本の技術は、高価格であるが、高性能、正直、安全、安心が売りであるが、昨年起こった有名ホテルによる食品誤表示（偽造？）事件は、日本の安全、正直の「看板」に大きな傷をつけたことは残念であった。

恩師のいふ

近鉄電車が国鉄（当時）線を高架で越えると油阪駅に着く。奈良を見渡せる高台にある駅を出ると今と同じように船橋通が北へと続く。

その道は、奈良高・奈良商・一条高・育英高の学生が通う学園通りとなっていた。

その道の突き当たりが奈良高の正門である。

残念ながら、今そこには学校がない。今、当時を思い出させるには少しばかりの記憶と写真に頼るしかない。

ついにながら、私が通った幼稚園・小学校・中学校も全て当時の場所でない。全くさみしい限りである。

その高校時代の記憶を蘇らせてくれるのが同窓会である。

われわれは、昭和三十三年卒業である。よって、学年同窓会は「三三会」と称して集

北中征夫

（昭和33年卒）

まる。

さらに私の組は、三年三組であった。昭和三十三年三年三組卒業でクラス会は「燦々会」などと称してみたりする。（散々会ではない。）

今年から来年にかけ、全員後期高齢者となる。この年齢になると何時、何があるか分からない。元気なうちに集まろうと、同窓会・クラス会・グループの会合等が再々ある。

集まれば話題は、病気の話、子供・孫の話である。そしてよく飲み、歌い、大声で話す。耳が遠くなり始め、どうしても声が大きくなる。

悲しいけれど、訃報も入る。寂しいことであるが、当時の思い出話で偲ぶこととなる。

同窓会とは有りがたいものである。言葉に出さなくとも気心が通じている。

現役を離れると、地域活動にかかわることが多くなる。自治会長・民生委員・老人会等地域への恩返しである。そんな時、奈良高の同級生・同窓生がいると助かることが多い。

お互いに考えが通じ合い、理解しあえることである。「奈良高スタンダード」とでも云えるものがあると思う。

しかし、『前の場所にあった学校は知りません』などと云われると、年の差を感じざるを得ない時がある。そんな中、共通の先生の話が出てくると嬉しいものである。

三年生の担任は、堀内薫先生である。奈良高での在任期間はあまり長くはないので、御存知の方は少ないかもしれないが、丸い眼鏡、毬栗頭でいつも優しい笑顔の先生であった。

後で、先生の活躍を知ることになるが、俳句の世界ではかなり高名な方であった。

私の叔父が山口誓子先生の門下生であり、妻も俳句を勉強していることで、関係の書物を読むこともあり、また、

俳句の大先輩からも、堀内先生の偉大さをいろいろ聞くことがある。

「京大俳句」として名前が知られており、のちに「七曜」を主宰されて活躍をされた。

また、朝日新聞の俳壇の選者などしておられた。

私たちは、そんなことも知らず、先生の歩く姿から「ひょっこんひょっこん」などと陰で呼んでいたのは恥ず

かしい限りである。

そんな、堀内先生の句碑が先生の実家がある高樋町近くの、今年、宝相華会総会で講演された、大西弘信氏の「正歴寺」にある。

太陽の火の粉となって 鳥渡る

興味のある方は、訪れてみられてはいかがでしょうか。

ある春宵のひととき

―奈高の運動場跡にて―

旧姓 植田（天理市在住）

今村 禎彦

（昭和34年卒）



「人生過去を語らず」という言葉がありますが、古稀も過ぎるほど馬齢を重ねてくると、たまには過去を振り返って懐かしい思い出に浸ること

も悪くはないと思うようになりました。そんな思いから原稿依頼を承諾した次第です。

ある晩春の夕方、春日荘で実施された団体の会合・懇親会が終わり、夕もやに包まれ薄暗くなりつつあった駐車場へ向かっていましたが、いつの間にか大きな運動場（懐かしい奈高の運動場）に出ていたのでした。

体育の教師に「卒業までに蹴上がりが出来なければ体育の単位はやれない」と言われ、運動場の西にある鉄棒に跳び付き練習に汗を流す男子生徒二人、練習を終えて東の売店で「素うどん」をすすり空腹を満たしている二人の生徒、じっと見るとそれは私と友人の姿なのでありました。

しばらくすると、秋の運動会の光景が浮かんできました。参加自由の長距離走（二五〇〇m走？）があり、意気込んで走ってみたもののだんだん足がもつれだし、あえぎあえぎ一番ビリでゴールインしている自分の姿がありありと見えたのです。

高校時代にタイムスリップしたのかと、何度も目をこすり頬をつねっていると、さあっと霧が晴れるかのように無機質なアスファルトの広場が現れ、そこにたむろする多くの自動車群が目に入ってきたのです。「ああ、いまのは幻想だったのか」と我に返った気になったのです。「公達に狐化けたり 春の宵」の句を思い出し、これはきつと黒髪

山のキツネが、私のために懐かしい高校時代の一場面を見せてくれたのではないか、いやきつとそうだと思います。黒髪山のキツネ君有り難う（本当にキツネが居るのかどうか知りませんが、私は居ると信じたのです）。私にとってはまさに「春宵一刻値千金」の一時でありました。

そこで、こんな拙い短歌を詠みました。

◎ 鉄棒に 跳びつく影は 誰なりや 我が青春の 姿なりけり

◎ 春の宵 狐のお陰で よみがえる はるか昔の 我が姿かな

こんな懐かしい五〇数年前の幻想に酔っている時、何とも辛く情けない出来事を思い出してしまいました。

それは昭和三十四年三月、京都大学経済学部を受験したときのことであります。

当時京大では合格発表は各学部毎に行われており、合格発表の日も決まっておらず、経済学部では大体例年どおり彼岸の頃になるだろうということでありました。

日には忘れましたが、彼岸のある日奈良新聞（当時は大和タイムス）に、京大経済学部合格者として私の名前が掲載されたのです。友人、知人からも祝いの電話を頂き、喜び勇んで京大へ発表を見に行きました。張り出されていた合格者氏名の中に、私の名前が無いではありませんか。

何ということかとショックに打ちひしがれて帰宅するとともに、学校にも出向いて担任の先生（山田哲夫先生）に報告しました。両親も山田先生も大変驚き「どういうことなのだろう。真相を確かめるべく京大へ行かなければ」ということになり、翌日京大経済学部の事務室を訪ねました。

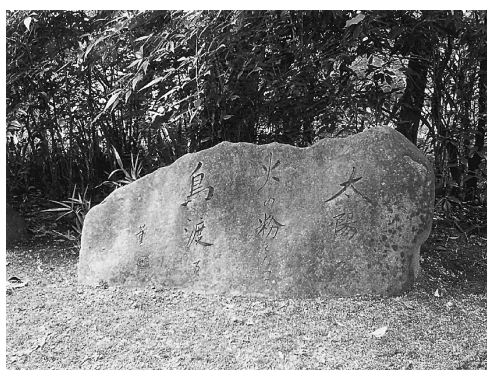
事務室の職員の説明は「経済学部の募集定員は二〇〇名です。受験生を成績順に並べていき二〇〇名で締切りとなるのだが、二〇三番目までは二〇〇番目の人と僅か一点差で続き、二〇四番目以降は点差が開いている状況だった。そこで二〇三名迄合格とするか問題になっていたのだが、最終的には教授会で二〇〇

名合格とすると決定された。二〇三名の受験生の名前を教授会の決定前に、新聞社が早々と打ち出したのだ。」ということでした。つまり私は一点差で不合格となったのです。なんでもっと慎重にやってくれなかったのか、新聞社のせいにしてしまっているけれど、事務的ミスではないかと思ったものです。親も山田先生も事務局員に相当食い下がってくださいましたが、当時は国家公務員の無謬性が信じられていた時代です。ましてや天下の京大です。その權威に圧倒され、「今年は残念な結果ですが、来年は合格間違いないと思います。頑張って再度挑戦して下さい」の言葉に泣く泣く帰ったのでした。学校では担任の山田先生のみならず、斉藤校長をはじめ多くの先生方が我が事のようにかつ励ましていただきました。ああこの学校に漂う空気が、奈良高で学んで良かったとつくづく思ったものでした。今

でもあの時のことを思い出しては感謝しております。

「来年は必ず合格する」と心に誓って一年間受験勉強に精を出し、翌年（昭和三十五年）に京大経済学部合格を果たしました。辛い一年間でしたが、後年「人生何事も順風満帆にいくものではない。浪人してかえって良かった。浪人したお陰で少しは耐性が養われた」と思えるようになりました。

今はもう辛い出来事よりは懐かしい思い出として蘇ってくるのです。



「バン格拉デシユへの道」 — 発展途上国への医療援助を始めて —

奈良県立医科大学臨床教授
岡本内科こどもクリニック院長

岡 本 新 悟
(昭和39年卒)



はじめに

私は昭和三十九年卒で、その後奈良県立医科大学に進み、平成十九年十月に同大学内分代謝内科の准教授を最後に退職し、以降臨床教授として大学で後進の指導を続けながら「岡本内科こどもクリニック」で家内と一緒に開業医として多忙な日々を送っております。ちょうど退職の5年前に私の研究室にバン格拉デシユから一人の留学生を受け入れ、彼と研究を進めるなかで発展途上国の医療の貧しさを教えられ、彼の希望を入れて彼の故郷であるガジプーという村に私からの寄附で

病院を建設しました。その後彼の努力もあり病院は順調に発展し、日本からの支援に村人だけでなくバン格拉デシユのノーベル平和賞のムハマド・ユヌス教授からも感謝の言葉を頂きました。その経緯とこれからの展望を御紹介し、奈良高校の卒業生の一人が発展途上国の医療援助という夢を抱いて生きている事を知って頂けたらと紹介させて頂くことにしました。

一. バン格拉デシユからの留学生を受け入れて

平成十六年十二月、バン格拉デシユからムハマド・セリム・レザという当時二十九歳の医師が私の研究論文である成長障害の早期発見の方法に興味を持ち、是非私から直接指導を受けたいとの希望を抱いて私の研究室にやって来ました。彼はバン格拉デシユの

最も難関のチッタゴン大学を卒業したエリートで、初対面での彼は口数の少ないおとなしそうな印象でしたが眼差しには知性と自信を感じさせる



青年医師でした。私は彼が日本にいるあいだに博士号を取らせてやりたいために基礎的な研究を指導したことがありました。彼の希望は患者さんの治療の実際をできるだけ多く私から学んで故郷に帰って自分の生まれ育った貧しい村の人々の役に立ちたいとの願いであることが分かりました。そこで私は大学の外来診療と病棟回診に彼を伴い一つ一つ診断から治療までを刻銘に説明しました。彼の医学知識のレベルは相当なもので、われわれがなかなか読破できないハリソンの内科学の知識はしっかりと理解しており、私が説明するのは診断の

プロセスと治療の実際だけでした。彼からの質問の多くは「私の国にはその様な検査ができませんがもしその様な場合どのように診断すれば良いでしょうか」とか「そのような治療が無い場合にはどのような治療が考えられますか」と言った帰国後の貧しい村での治療を頭に描きながらの勉強でした。その四年間の彼との研究生活の中からバングラデシユの医療事情がいかに貧しいか、また現地の人々の衛生観念の意識の低さについて教えられました。今から振り返って彼は私に発展途上国の医療の貧しさを教えたきた宣教師のようなものだったのかもしれませんが。そして彼が4年間の留学を終えたとき学長と私の名前で「内分泌・代謝疾患専門医… Fellowship of Endocrinology and Metabolism」の称号を与えました。

二. バングラデシユへの医療援助を始めたいきさつ

四年間の彼との研究生活の中で、私は彼の人柄や医療に対する考え方について十分理

解し、また彼も私を指導医を超えた恩人とみてくれたようです。そして彼の日本での最後の学会発表で東京に行ったとき、東京を見せてやるために半日コースの「はとバス」で東京見物をしました。そして浅草寺の境内の露店で簡単な食事をしているときに彼から思いもよらない申し出を受けることになりました。彼は神妙な顔で「先生にはこの四年間本当にお世話になりました。今アラブの国の病院から高額の給与で招聘されています。しかし私は自分の育った村の人々の為に、先生に教えて頂いた事を活かして村の人々のために働きたいと考えようになりました。私の育ったガジプール村は二十万人の人口がありながら医療機関が全くないのです。私と親戚がお金を出し合っても到底病院を立てることができません。先生に病院を建てるお金を貸して頂けるでしょうか。」という彼の必死の願いでした。私は即断できずどの程度のお金があるのかと聞きま

す。退職するときの在職二十六年間の退職金に相当する額でした。私はその時、自分はまだまだ元気な働けるし、そのお金を生活の糧にしなくても何とかなるだろうと考えその場で彼の希望の全額を提供することを約束しました。一瞬家内の顔が浮かびましたが家内には内緒でした。あの貧しい医療事情からはとうてい返ってくるお金ではないと考えて、「岡本海外医療援助基金財団」を設立し、そこに私が寄附をし、病院建設の資金としました。いわゆる全額寄附ということでもし返済できればそのお金でバングラデシユの無医村に病院を立ててほしいと伝えました。そして彼が故郷に帰った翌年から病院建設が始まりました。

三. 岡本医療センター (Okamoto Medical Center) とマンゴー園の建設

医療機関のないガジプールでは多くの病人は医学知識の無い民間医療をたよりにしており、交通事故による骨折でも抗生物質による感染症の治療ができず亡くなってしま

ます。発展途上国の人々の生活は死と隣り合わせて、多くの病気はそのまま死に繋がっており、またそれが当然として受け入れて生きていかねばならない世界と言えます。またバングラデシユには保険制度がなく医療費は全額患者負担であり、もし病院を建設しても患者さんの中には医療費が払えない人が少なくありません。われわれはお金の払えない患者さんにも平等に医療を届けるということで始めたプロジェクトですから、その人々のための医療費を捻出する手立てを考えました。そこで私はある中国の故事（神仙伝）の奇事な医師の逸話を思い出しました。それは「ある中国の医師が医療費を払えない患者に施療院の庭に杏の木を植えることで医療費を免除した」と言う逸話で、何年かしてその庭の杏は大きな林となりその医師の人柄を讃えて杏林という言葉ができた」という話です。そこで私はバングラデシユがすばらしいマンゴーの産地である地であることから追加の寄附で2ヘク

タールの土地を購入しマンゴー園を作りました。そしてマンゴー園には私達のプロジェクトに賛同して頂いた方々から寄附を募りマンゴーの苗を1本一万円で購入して頂き現在までに二五〇名近い方々から約六〇〇万円寄附を頂きました。そして寄附を頂いた方の名前をパネルに書いてマンゴーの木の写真の入った年賀状が毎年レザ医師から送られています。

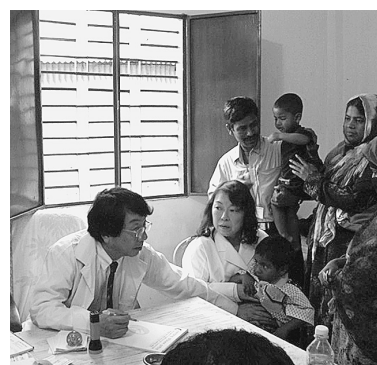
その後病院の噂が広がりそれを聞きつけた患者さんが遠くからも訪れるようになり五人のスタッフは必至に治療を行っています。

四. 岡本メディカルセンターを訪問して

開院から一年してレザ医師からは是非病院を見てほしい、できれば病院で私と家内に診察をお願いしたいとの申し出がありその年の年末に私と家内と娘の三人でガジプールを訪問しました。初めてのバングラデシユは塵にまみれた道路を人力車が行きかう喧騒たる街並をボロボロの車がガナリたてるように警笛を鳴らし



て走っているまさに想像を絶する所でした。しかし彼の故郷であるガジプールは昔の日本の田園風景を思い出させるのどかなところで、そこに少し違和感を感じる青色の鉄筋コンクリート造りの病院が目に入りました。病院の玄関の周囲には多くの村人達が私達を待つて出迎えてくれました。そして私は内科を家内は小児科を担当し、その日のうちに私達は一五〇名位の患者さんを診察してきました。病院ができて医療機器は不十分で十分な検査ができず、普段私達が日本で行っている診療とは程遠い明治大正時代の診察となりました。しかし患者さんのベンガル語をレザ医師が英語に翻訳しての問診と打聴診だけの診察でもガジプールの患者さんにとっては



日本の医師の診察を受けたという事で満足し、私達の処方した薬を感謝して受け取ってくれました。何人かの医療費の払えない患者さんには無料で薬を処方しました。日本の先進医療になれている私にとってこの経験は私の医療に対する考え方に大きなインパクトを与えることになりました。それは話題になっている遺伝子治療やES細胞による臓器移植などの先端医療も重要ですが、いまある医療を発展途上国に提供し、全世界の人々にとって医療の機会均等を進めることがいかに大切かを学ぶことになりました。

五、ノーベル平和賞ユヌス氏との会見からマンゴーホーム建設まで

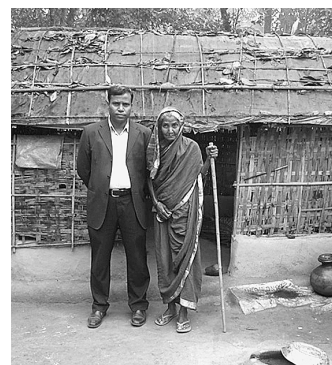
ガジプールでの診療のあと



村人達二〇〇人による大歓迎パーティーを受け、帰国の前日には二〇〇六年にノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス学長と面会することができました。ユヌス氏はわれわれのマンゴー園を有するプロジェクトはすばらしく、今後発展するでしょうと高く評価して頂きました。そして今後も連絡と取り合って（氏の言葉で keep in touch with you）協力して行きましょう

と握手して別れました。

そして帰国後レザ医師からは定期的に病院での治療の状況の報告があり、レザ医師が治療する患者さんの写真を数多く見る機会がありました。その中に何人もの身寄りの無い寡婦が今にも風で飛ばされ



る様な粗末な小屋で生活しており、「ほっておけない」という気持ちになり、その様な人々の為のホームの建設を計画することになりました。私からの寄附で三階建ての三〇名程収容できるホームを建設し、レザ医師のお母さんがホームマザーとして土地の人々と一緒に世話をすることになりました。少し働ける人には一階の広間で手仕事をしてもらうことにしました。そして最近マンゴー園を建設してから3年経ってマンゴーの実が収穫でき、その最初の収入を記念として二十三名の身寄りの無い寡婦のためにラマダン明けの祝いの時に着る晴れ着をプレゼントしました。

六、発展途上国への医療援助から学んだ事

私はバン格拉デシュからレ

ザ医師を留学生として迎えるまでは発展途上国の医療には全く関心はなく、世界のどこでもわれわれが行っている様な医療が受けられているものと思っていました。しかしレザ医師からバン格拉デシュの医療事情を聞き、また実際に当地で診察を行って、いかに世界の医療レベルに格差があるかを知らされました。日本で医師として日々目の前の患者さんに全力投球して医療を行うのも大切ですが、すこし世界に目を向けますと、われわれと同じ時代に生まれ、ただ生まれた国が違うというだけでこれほどまでに貧しい医療のなかで生きて行かねばならないのかと思うとほっとけない気がします。私が特に慈善の心を持っていたわけでもなく、留学生として私のところに来たレザ医師のこの様な貧しい人々を何とかしたいという心に打たれたもので、どなたでも私の立場にあればその方法は違えども何らかの手助けをされた事と思います。これからの若者には豊かな日本に安住することなく世

界に目を向けて多くの苦しみの中にいる人々の支えとなる様な生き方をしてほしいと、大学の講義で毎回この話を紹介しています。ここでは詳細をお伝えする紙面が有りませんがもし宜しければ「岡本海外医療援助基金」のホームページを御覧頂くか、ご一報を頂けましたら「バングラデシュへの道」という小冊子を御送りさせていただきます。

最後に高校の同窓会誌に報告する旨をレザ医師に紹介しますと以下の様なお礼のメールが送られてきましたので紹介します。

Dear Nara High School Reunion Members

Thanks a lot to all the members of reunion of the Nara High School. I hope that you all are fine by the grace of almighty God. I had an opportunity to stay in Nara for study at Nara Medical University. I will never forget the love and co-operation of the people of Nara. I love Nara, the people of Nara and

Japan. Thank you so much for your kind contribution to our mango donation project. Now we are making a home named Okamoto Mango Home in the garden for supporting the miserable widows and widowers. I hope that with your kind co-operation we will be able to make greater progress in our project.

May God bless you all!

Sincerely Yours,

Dr. Selim Reza

Okamoto Medical Center

Bangladesh

奈良高校の同窓の皆さまの活躍をお祈りし稿を終えさせていただきます。

岡本海外医療援助基金連絡先
〒633-0064

奈良県桜井市戒重二〇六番地

岡本内科ごぶクリニック内

岡本新悟

TEL 〇七四四—四二—四二五二

<http://www.okamoto-medicalfund.org/>

演劇海外公演の反響

演出家・明治学院大学教授 岡本 章
(昭和43年卒)

昨年の十一月に、宝相華会東京支部の定例総会におきまして、記念講演という形で少しお話をさせていただきました。『能を現代に活かす―海外公演の反響と文化交流』というタイトルで、二〇一二年に私の主宰する劇団が行った、ルーミア、モルドバでの海外公演の話題が中心でした。

私は一九六八年に奈良高校を卒業し、早稲田大学第一文学部に入りました。詩や小説の勉強がしたかったので

が、六八年当時は、社会や文化状況が激しく揺れ動き、文学、美術、音楽、映像などの芸術表現の領域も活気があり、色々と足を運びましたが、そこで出会い、中でも強く興味を抱いたのが、演劇などの舞台芸術でした。新劇の大手劇団から、アンガラ小劇場と呼ばれた現代演劇まで多くの

舞台を見ましたが、そのうち能や歌舞伎などの伝統演劇にも関心が向き、熱心に見るようになりました。特に自分とは縁遠いと思っていた、能の持つ、世界に類例のない独自の優れた演劇表現の魅力に付き、深く揺さぶられたのは大きな体験でした。その後学生劇団や能のサークルにも参加し、一九七一年に「錬肉工房」という劇団を結成、現在まで演出家として活動が続けてきました。

さて、四十数年に渡る私の演劇活動の中で、特に重要な仕事として、伝統演劇である能を現代に開き、現代演劇にどのように活かすのかという試みがあります。ご承知のようにに能は、中世の時代に観阿弥、世阿弥父子によって大成され、六〇〇年以上の歴史を持つ仮面劇です。能の面白味、

魅力を「逆説の美学」と名付けた人がいましたが、徹底してシンプルな構造の中で、豊かで鮮烈な劇的世界が幽玄の美とともに立ち上ってきます。まさに最小限の情報で最大限のものが伝わり、観客の想像力を生き生きと揺さぶって、創造的に参加すること、可能にします。そんな演劇は、世界にも他にはあまりありません。そこで私は、そうした能の本質的な構造を捉え返し、特に能の演技の問題に一つの的を絞って、一九八九年より「現代能楽集」と称した連作を創作し、国内外で上演してきました。

海外公演は、これまでイタリア、ドイツ、韓国などで行って参りました。二〇一二年には先に述べましたように、ヨーロッパの三大演劇祭の一つである、ルーミアのシビウ国際演劇祭と、隣国モルドバでのBITEI国際演劇祭に招かれ参加しましたが、これは文化庁の国際芸術交流支援事業でもありました。上演した演目は、フランスの劇作家ジャン・ジュネの『女中た

ち』で、これを写実的なお芝居風ではなく、能の抽象的な様式性を応用した演技、演出で、女優五人で演じました。もちろん言葉は日本語で上演するわけで、観客の手掛かりは字幕しかありませんので心配しましたが、どちらの国も劇場は満員で、深い集中があり、息を詰め、熱心に見ていただけました。終演後はスタンディング・オベーションがあり、ルーマニアの新聞に「錬肉工房がジュネ劇の上演で、世界の演劇史に残るような成功を収めた」という批評

が掲載され、大きな励みになりました。海外公演を行い感じますのは、日本文化に対する関心です。特に伝統演劇である能や歌舞伎については、単なるジャポニズムではなく、新しい演劇を展開していく重要な手掛かりとして強い興味、関心を持たれていることが痛感されます。今後も持続して、少しでも東西の文化、そして古典と現代を橋渡し出来るような演劇創造、文化交流のあり方を探っていければと考えております。

昭和59年卒業生 卒後30周年同窓会報告

土居 美香

(昭和59年卒)

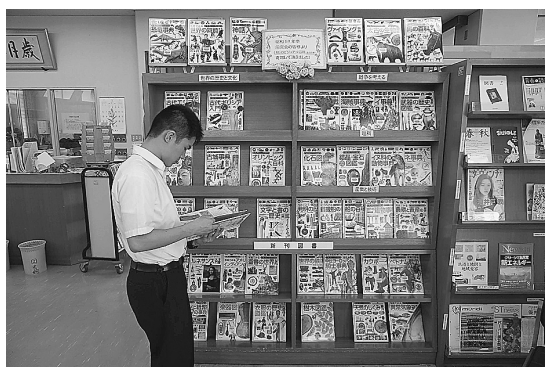
平成二十六年三月二十一日、私達昭和59年卒業生は、ホテル日航奈良に於いて、卒後30周年同窓会を開催した。

当日は、御多忙にもかかわらず快くご出席いただいた担任の先生方八名と、二〇〇名

近くの同窓生が集まり、かくも盛大に開催させていただくことが出来た。ただただ感謝の気持ちでいっぱいである。またそれと同時に、今日の日を迎えることができて本当に良かった！という安堵の気持ち

ちでもいっぱいであった。

先輩方が、数年前から卒後30周年を機に、同窓会を開催されていることはお聞きしていた。誰かが計画してくれるといいなと、他人事だった私に、一学年上の先輩から一通のメールが。私達の学年の同窓会計画がどうも進んでいないらしい、と危惧されて、同窓会の開催と幹事の催促という内容であった。初めはただただお断りしていたのだが、自身の学年ではないのに、何回も熱心にメールをくださるお気持ちにとうとう根負け。やつてみようかと決意した次第である。



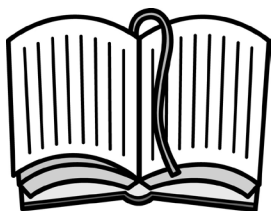
そこからは、現奈良高校教諭である同窓生の中尾さんに連絡をとり、代表幹事中尾さん、三田(旧姓・榊田)さんのもと、私同様に何らかのきっかけで集まった風呂井さん、鶴飼さん、往西さん、松尾さんと計七人の幹事で計画が始まり：なんとか開催に至ることが出来たわけである。

さて、当日。三田さんのユーモアある代表幹事挨拶で幕開け。物故者への黙祷ののち、恩師のご紹介、そして松本武彦先生に恩師代表でご挨拶をいただいた。続いて、谷垣康先生の乾杯の音頭で、歓談タイムに。久々の再会にこここで大歓声上がり、話の花が咲く。大変賑やかに会は進んだ。宴もたけなわのころ、先生方より貴重なお言葉を頂戴し、30年ぶり？の校歌斉唱、そして総勢二〇〇名全員での記念撮影。最後に、中尾さんが感謝をこめての閉会挨拶、そして、出席のお返事をいの一番にしてくれた油納さんに、一本締めを急遽お願いし、盛会のままお開きとなった。

ご参加いただいた皆様には、労い・感謝のお言葉を数多くいただき、本当に嬉しく、ありがたい限りであった。今回お仕事のご都合などで、残念ながらご参加いただけなかった皆様、是非10年後？の同窓会にはお顔を出していただきますよう。そして、12年後には宝相華会総会の幹事担当学年でもある旨、皆様のご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

追記

今回の同窓会での残金を母校後輩のために図書を購入し寄付いたしました。「知」のビジュアル百科全50巻というシリーズの本で、早速後輩の皆さんが読んでくれていてとてもうれしかったです。これからも活用してください。



よき環境に恵まれつつ

柳 田 佐紀子

(平成21年卒)

高校時代に一番がんばったことを聞かれたら、何を思い浮かべるだろうか。今高校生の人なら、自分がこれまでで一番がんばったことは何だろうか。先日これと同じ質問をされ、自分でも驚いたのが返答に詰まってしまった。何かをがんばっている自分を呼び起こそうとしても、具体的なイメージが浮かんでこない。

なぜ答えられなかったのだろうと考えた。そして、それは自分の中の「がんばる」という言葉に付随するイメージのせいだと思い至った。「がんばる」と聞くと、何か大変なことを苦勞を伴って成し遂げようとするのだと考えてしまう。私は高校生の時、確かにいろいろなことに力を出していた。もちろん疲れもあった。しかしそれを苦勞だ

と思ったことはなかった。自分が前向きな人間なのかというと思わずしもそうではないが、何をして最終的には楽しいと思えた。それは心配や悩みが何もなくなった「楽」な思いをして過ごしていたという意味ではない。困った時やしんどい時にもそれらを自分の成長の糧と捉え、尊いものだと思えた。そんな風に考えられたのは、奈良高校という恵まれた環境で高校生活を送ることができたからこそだと思ふ。生徒の好奇心を刺激し、わかりやすい授業をしてくださる先生方。互いを大切にし、正直な付き合いをしてくれる友人たち。生徒の主体性を尊重し、のびのびと学校生活を送らせてくれる校風。自分にとって奈良高校は安心して悩み、失敗できる場所だった。高校生時代は、親や先生方か

らの愛情、そして奈良高校の懐の深さに包まれた幸せな時間だったと思う。それはやはり、「がんばる」という言葉とはなじまない。自分の捻くれた考え方に少々呆れる一方で、それでもこの質問には答えられないなあというのが今の正直な心境だ。

では少し表現を変えて、自分が高校生の時一番時間を割き、力を入れたことは何か。当然、勉強である。朝の電車です立ったまま教科書とノートと電子辞書とペンを持って予習した。授業中は当ててもらおうと先生を凝視した。わからないことも多々あったが、なんと楽しい時間であったか。

続けてもう一つ、質問をされた。「あなたが大切にしているものは何か。」また難しい質問である。悩んだ末、「出会い」と答えた。幸せな日々の中で人生の土台を築かせてくれた奈良高校との出会いに感謝しつつ、これからも自分のすべきことに力を尽くす喜びをかみしめていく。

東京支部だより

国営昭和記念公園の散策ウォーキング

東京支部・事務局 杉 美知男

(昭和32年卒)

東京支部の同好会「首都圏近郊散策の集い」(#23)は一〇月一二日(土)に実施しました。

今回散策した「国営昭和記念公園」は旧米軍立川基地の約半分を整備され、昭和五十八年に日比谷公園の十一倍の広さのある国営公園として開園された。

当日は快晴で絶好の散策日和に恵まれ、桜(ソメイヨシノなど)の時期は過ぎていたが、遅咲きのしだれ桜や八重桜などを随所で観察できました。様々な花の咲く公園として知られており、この時期にはチューリップやスイセンなどの草花が随所で美しい季節の景色を楽しむことができました。

これらの花々を観賞しながら整備された池泉回遊式庭園の日本庭園に向かった。あまりにも広大な公園なので、一日では廻りきれない部分もあったがいろんな草花や風景を楽しみながら立川口に向かう。JR立川駅周辺のレストランで昼食の後、自然解散となった。

今回の参加者は福野節子(高28)、高原慶子(高28)、吉岡克己(高30)、紀平清子(高31)、鈴木恵子(高32)、山口芳子(高32)(友人三名を含む)、伊達悦子(高32)、播道子(高32)、高野史(高40)と私を含めて十三名でした。

次回は平成二十六年十月十八日(土)頃に実施を予定しています。



「国営昭和記念公園」(立川口付近にて撮影)

平成二十六年 度

東京支部総会(予定)

日時…十一月八日(土)

十五時三十分開会

場所…法曹会館 千代田区

霞ヶ関一―一―

会費…七、〇〇〇円(予定)

総会…十五時三十分

記念講演…バイオリン演奏

中野 萌恵様

(高平20卒)

懇親会…十七時三十分

十九時三十分頃

大阪支部だより

「大阪支部への新たな思い」

宝相華会大阪支部 支部長 久保 勇

(昭和27年卒)



早いもので、母校創立九十周年記念事業の節目の年も過ぎ、今年も早や、恒例の大阪支部総会の日を迎えることになりました。

連日の猛暑にもかかわらず、開催日の七月十八日、会場のシェラトン都ホテル大阪には、会員の皆さんが多数かけつけてくれました。来賓として学校側から新任の松尾学校長始め、関係の先生方、本部から小山会長、役員の方々の参加を頂き、お陰様で満席での開会となりました。設営に当たって頂いた担当役員や、当番学年の皆さんの努力

の賜と、厚く感謝をしているところです。

さて、私は今年の総会にのぞむにあたり、二つの思いがありました。

一つは、昨年の母校の記念事業に関する私なりの総括であります。それはスローガンから伝わってきたこと、即ち九十年の歴史と伝統を踏まえて、しっかりと足場を固めて、次の大きな節目(二〇〇周年)に向け、日本の真の名門校を目指す、学校と生徒の皆さんの固い決意でした。

だとすれば、今年はその目標に向けて第一歩を踏み出す大事な年になると。もう一つはこうした母校の

あゆみを受けて、応援団の一翼を担う同窓会の我が支部も、従来の総会・懇親会型の応援団にとどまらず、卒業生

としての誇りやプライドを母校支援のエネルギーにかえて行く頼り甲斐のあるサポーター集団へ進化させる節目にしなければ、そんな思いでありました。

先ずは九十周年事業の意義を会員も皆様に理解してもらうため、学校で当時、校内委員長を務められた中尾教諭から映像を使って解説を頂きました。

次に、こうした理解のもと、これからの母校の進路に歩調を合わせるため、会則の改正を始めとする新体制へ移行し、思いも新たに、新大阪支部で出発する事、そんな決意のもと、会をすすめたところ



です。

そして、会の終盤に、中村勢津子アルト歌手の指揮で校歌を合唱し、結びとして「高校三年生」を歌い上げて、ありし日の自分の姿を重ねながら、いつまでも青春を合い言葉に、思いを一つにして会を閉じました。

多数の皆様の参加の中、意義ある会になりました事、心から感謝申し上げます。

(現職)

KBC総研株式会社 代表取締役

南海電気鉄道株式会社 社有



つどい会だより

「在宅介護」

つどい会副会長 神谷 マサエ

(昭和57年卒)



夫は中国が好きで年に数回旅行に出掛ける。

この日も三ヶ月後に、中国へ旅行するべく、計画をたてていたが不意にその手を休めて「十日ほど前からお腹の調子が悪いので医者に行つて来る」と出掛けた。行きつければ近くの診療所である。

二時間ほどして帰つて来た夫は「明日入院準備をして総合病院へ行けと紹介状を渡された」という。翌日入院し四日間の連続検査の結果、「胃癌の末期で肝臓へも転移している。余命三ヶ月を覚悟して頂きたい」ということだった。

早速、抗癌治療が始まったが副作用がはげしく十日目に体重が十二kgも減っていた。口にあう物を作つて毎日運んだが薬は内服のみなので自宅療養にきりかえようかと考えた。

そこで最初に診て頂いた医師に相談に行った。先ず退院して先生の所へもどりたい事。しかし、「その場合一番心配な事は外来診療以外の時間に異変がおきた場合、やっぱり救急車でお世話になるしか方法がない(結局入院になるしかない)」ということなんですよ」というと医師は「そんな可愛そうな事はさせない。夜中でも明け方でも私が診察に行く」と言つて下さった。「すべてお任せします。すべてお願いします」と頭を下げた。しかし、そうと決めてはみた

ものの私は八十一才。喘息・高血圧の治療中。でも夫は余命三ヶ月の末期癌。どこまで支えきれかわからないけれど、人生最後のカケをしようにと心を決めた。そうだ、介護と思うから重い。老いゆく夫婦の共有の時間と思えば気持ち楽だ。病氣も仲間に入れてやろう。

退院後の訪問医療は医師が週一回往診、ナースが一日おきに点滴と介護指導に来て下さった。

夫には気分一新の為、今までの肌着もバジャマも全部捨て、新しい物にとりかえた。今出来る最初のオシャレを



してやりたいと思った。肌着の感じなど云つた事のない夫が「新しい肌着にしてくれたんで柔らこうて気持ちが良い」と云つてくれた。自宅では時間を気にせず訪問出来るので子や孫も随時来てベッドサイドへ食事を運び孫が自分の刺身をさし出すと一切つまんで「おいしい」と笑顔で食べた。本当は流動食しか入らないのに…。

抗癌剤は副作用が強く転倒しだしたので中止し、モルヒネの緩和治療になった。「モルヒネは命縮めるやろ」と夫が云うので「癌の苦痛をやわらげるのが目的だよ」と私は云った。が、為す術のない癌は進行し初診で医師が診断された通り、わずか三ヶ月の闘病でこの世を去った。

「私ひとりの介護という方法を選んだけれど、これでよかったのかなあ」と云つた時、夫が「だいまんぞく」と言つてくれたことが最後のささえになったように思う。

あと三月生きられたら金婚式だった。
遺影に白バラ

添えて つぶやく
合掌

なら散策便り

第六十回なら散策は、四月六日、「桜の吉野は歴史の宝庫」という事で楽しみにして出掛けました。出かけるときから怪しい空模様で、吉野に近づくにつれて、小雨がふりはじめ、吉野駅に着いた頃には本格的な雨になりました。もしかして、誰もこられないかなと、思っていたところ上杉さん、竹長さん、女性では古田さんも。申しわけないやら、感激するやら。この、悪



天候のなか、よく参加して下さいました。傘をさしながら、元気に散策をさせて頂きました。解散をした後で、「楽しい散策でした」と、メールもいただきました。つどい会ならばこそ、歴史のひとつまとなりました。ご参加の皆様、本当にご苦勞様でした。ありがとうございました。

つどい会の行事予定

- ・第六十一回奈良散策 秋の部
平成二十六年十月二十六日(日)
近鉄奈良駅 十時集合
「奈良公園・般若寺のコスモス」
- ・つどい会二十周年記念総会
平成二十七年五月十七日(日)
十一から十四時の予定
会場、春日野荘 近鉄奈良から送迎バス予定
- ・第六十二回奈良散策
平成二十七年六月十四日(日)
近鉄奈良駅 行其像前 十時集合
奈良交通バスにて四十五分
「柳生花しょうぶ園」
- ※平成二十七年度 宝相華会総会

平成二十七年四月十二日(日)
十時開会
ホテル日航奈良にて開催され

ともしび会だより

留学生の日本観

ます。
つどい会からも、多数のご参加を。

姫野 忠 弘

(昭和35年卒)

わが国と中国、韓国との関係が史上最悪といわれて久しい。残念なことである。

私は昨年三月まで、県内の短期大学で留学生(主に東南アジア出身)に、日本の政治・経済等を紹介する授業を担当した。

授業の最後に日本の印象を自由に記してもらった。

「日本は物価が高い」というのが、留学生の共通した感想である。特に、食料品、交通費、家賃、電気・ガス代等生活に必要な不可欠な経費が、母国に比べ高いようだ。ミャンマーとは十倍以上のことである。しかし、日本は賃金も高く、普通にアルバイトをす

れば、何とか学生生活は送れるようだ。電気製品、化粧品・車等は日本で買う方が、安くて品質が良い。また、公共交通のネットワークが発達しており、留学生が通学にも利用する電車は、きれいで、時間通りで、待たずに乗れる、と感嘆している。さらに日本人は、ルールを守り、互助の精神が行き届いており、争い事も少なく、町は清潔であり、留学生にも親切である。母国より日本の方が住み易い。外交辞令ではないかと疑いたくなるほど、日本に好意を抱いている学生が多い。

二〇一二年九月、尖閣諸島国有化後中国では大規模な反



日暴動が起きたが、中国留学生に意見を聞くと、「暴動を起こしたのは経済的に恵まれない一部の国民で、政府への不満のはけ口である。良識のある中国人は眉をひそめている。」さすがに尖閣は中国の領土であると、中国政府の見解を言いにくそうに述べたが、日本では言論の自由が保障されているので、思ったことを言っても良い、と伝えると安心したようであった。中国で喧伝されているように、日本人は卑屈で卑怯な国民かと思うと、「そうではない、みんな親切だ。ほとんどの中国人は日本のことを知らない。」と

のことであった。
日本の真の姿を、多くの外国の若者に体感してもらう必要性を感じた。勿論日本の若者も世界を知ることが不可欠である。

我々の頃は冬、教室に暖房用の火鉢がおりてあり、休憩時間に火鉢を囲んで談笑するのが楽しみであった。それぞれが家庭の事情を抱えながら定時制で学んだが、みんな明るく前向きで相手を思いやる気風があったように思う。家族ぐるみの親交が現在も続いているのも同級生とである。

近隣諸国とも、このような相互理解ができないものか、切に願う今日この頃である。



雑想

片岡 利代子

(昭和39年卒)

今、テレビは、兵庫県議会議員の記者会見を映し出している。

「あれっ、泣き出した。なんで?……この人が議員?報酬も受け取る!政務活動費の使い途……税金やのに……」

先日は、東京都議会や四月国会で、各々、議員が、議会で登壇し発言中の女性議員に対し、悪質な女性差別発言(決して野次ではない。)をした件では、事もあろうに発言した本人が全く無関係の様に堂々と振る舞い、すつとほけ、臨席議員もほとんどが、聞いて聞かぬ振る舞い。他の関連する同様な発言者も未だ不明としている。(人権……そんな生やましい事ではない。根幹には深い歴史に依拠した発言であり、それが、笑いや暗黙の了解をしているその場に居合わせた人達の雰囲気。子ども

達の学校でのいじめではあるまいに。)

自ら、手を挙げて議員になったであろうに、議員報酬や政務調査活動費を受け、自己研鑽費用はあるであろうに。

なさない。将来は?行政の点検は?私たちの未来を託せるのかな。

片や、警察官の中には、証拠隠滅・証拠捏造・供述調書改竄・誤認逮捕・銃やその玉の収集・事件処理件数の帳尻合わせ等が多数発覚している。

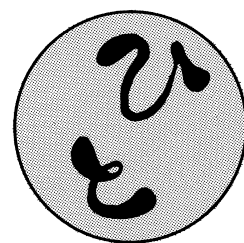
さらには、教諭と呼ばれる子ども達の教育者の中には、その子ども達を、ストーカー、性犯罪対象にしたり、成績や指導に関する書類の不用な持出しがあったり、PTA会費の使途不明金が判明したり。社会的経済的に安定してい

ると見られる立場の人達が、この様な状態になるとは本当に嘆かわしい。

反面、社会的立場が弱者とならざるを得ない人達の大半は、経済的社会的な制限を受ける中、自立へ向けて生活を懸命に営んでいる。しかし、経済的土台を築くための労働には、なかなか就きにくい。労働する形態が「規制緩和」の美名にそぐわない劣悪な労働条件の基に働かざるを得ない現実が横たわっているからである。その中、子ども達にもその格差は歴然と成績や行動に如実に反映している。一旦「生活保護」や、社会福祉協議会の支援を受けると、なかなか抜け出せない。一旦、生活向上、自立へ向け渾身の努力を続ける人も、それを確立する事は稀である。

特に女性には深刻である。就業規則のない、又は不明確な企業での労働(賃金・各種保険・有給・介護・育児・産前産後・生理等の休暇・厚生が不明確)幼児学童保育所も入れられない、労働はワンクッション置いた契約(不利な立

場になり発言機会は少ない。)でも、寄り添い人間としての生活を目標に共にいたい。追、「認知症キャラバンメイト・きづがわ」を立ち上げました。サポーター養成講座を開けます。



叙 勲

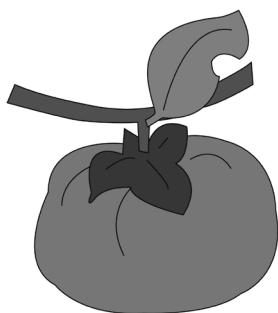
(平26年 春 受賞)

瑞宝小綬章

中谷 洵 氏 (昭28卒)

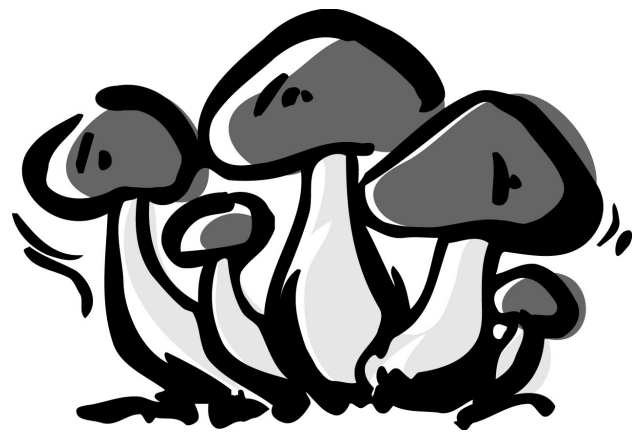
黄綬褒賞

下西 巖 氏 (昭27卒)
(株)下西製作所会長



平成二十六年度人事異動

【退職】	校長 小林 勢治	事務長 反田かおる	（教諭）	地歴公民 笠井 智代	理科 藤澤 育子	英語 山本 佳未	（講師） 数学 堀内 孝明	【転出】 教頭 上田 英明	明日香養護学校長	（教諭） 国語 藤本 幸代	数学 嶋田 恵司	理科 森田 好博	理科 中島 秀介	英語 中澤 祥恵	英語 奈良県教育委員会 事務局学校教育課 小西 なつみ	臨時実習助手 高円高等学校
（事務室）	臨時司書 寺本 彩子	郡山高等学校	【転入】 校長 松尾 孝司	教育研究所副所長 嶋田 義也	教頭 奈良高等学校教諭 大平 隆造	事務長 生駒高等学校事務長	（教諭） 国語 駒田 結美	数学 小寫 倫世	奈良県立教育研究所 今井 直樹	数学 西和清陵高等学校 伴 哲朗	理科 平城高等学校 金田 義亮	理科 奈良北高等学校 有馬 一頼	理科 山辺高等学校 増田 貴行	理科 高田高等学校 黒澤 絵里	英語 井上真奈美	
	英語 登美ヶ丘高等学校 川下 愛	臨時実習助手 塩出 麻未	（事務室） 臨時司書 倉阪 英恵	大和中央高等学校												



役 職	会員番号	氏 名	役 職	会員番号	氏 名	役 職	会員番号	氏 名
理 事	高39-01-13	小 西 寛 人	理 事	高60-06-38	藤 村 有 美	理 事	高平22-02-08	東 剛
理 事	高39-01-42	前 田 泰 子	理 事	高61-06-20	古 川 雅 一	理 事	高平22-04-23	曾 谷 世 奈
理 事	高40-09-47	向 井 利 明	理 事	高63-09-37	足 立 聖 代	理 事	高平23-02-26	座光寺 希 絵
理 事	高41-10-27	鈴 木 民 一	理 事	高平01-10-25	西 川 修 司	理 事	高平23-05-14	前 川 修 也
理 事	高42-06-40	前 田 隆 一	理 事	高平01-02-14	平 林 勝	理 事	高平24-02-23	河 原 風 花
理 事	高42-09-50	植 原 總 子	理 事	高平02-09-35	小 西 千賀子	理 事	高平24-08-07	岡 本 諒
理 事	高42-11-12	岡 嶋 隆 文	理 事	高平06-01-16	林 和 範	理 事	高平25-04-23	杉 本 奈 緒
理 事	高42-05-08	坂 口 良 子	理 事	高平06-05-03	陰 地 秀 晃	理 事	高平25-06-37	夏 原 明日香
理 事	高43-01-34	中 村 勢津子	理 事	高平07-02-16	松 嶋 克 樹	理 事	高平26-04-05	江波戸 隆
理 事	高43-03-35	中 村 憲 司	理 事	高平07-03-26	竹之内 沙弥香	理 事	高平26-05-22	吉 本 伊 吹
理 事	高43-06-44	杉 山 正 治	理 事	高平09-05-14	吉 田 卓 治	理 事	定34-05	栗 田 妙 子
理 事	高43-07-07	岩 井 信 孝	理 事	高平11-02-04	小見山 肇	理 事	定38-18	松 林 俊 夫
理 事	高45-05-39	新 田 一 夫	理 事	高平11-05-14	塩 田 剛	理 事	定41-09	木 村 文 彦
理 事	高45-05-46	松 井 康 吉	理 事	高平12-07-10	田 中 武 彦	理 事	定46-30	森 本 康 則
理 事	高45-09-47	矢 入 隆 史	理 事	高平13-01-28	後 岡 美 帆	理 事	定54-06	奥 田 十志夫
理 事	高45-09-28	中 原 利 之	理 事	高平13-10-36	福 井 麻衣子	理 事	定62-11	堤 泰 彦
理 事	高46-09-08	岡 田 博 之	理 事	高平14-01-06	久 保 翔 平	理 事	定総01-商-15	橋 爪 孝 子
理 事	高46-02-25	出 口 真 一	理 事	高平14-02-14	植 田 純 代	理 事	定総01-電-09	吉 本 弘
理 事	高47-02-05	大 原 弘 信	理 事	高平15-02-12	新 子 碧	理 事	定北10-03	木 村 美智子
理 事	高48-01-07	岡 嶋 良 男	理 事	高平15-09-06	田 中 芳 幸	理 事	通42-02	森 田 章
理 事	高48-02-32	村 田 茂 樹	理 事	高平16-01-24	仙 波 扇	理 事	通平10-05	竹 長 千 咲
理 事	高48-07-23	植 村 育 代	理 事	高平16-03-01	足 立 翔 治	理 事	通平11-12	西 村 貴 司
理 事	高49-08-35	堀 内 秀 規	理 事	高平17-02-25	高 岡 めぐみ			
理 事	高52-06-09	藤 井 茂 久	理 事	高平17-05-31	越 賀 希 英	学 校 長	奈良高校職員	松 尾 孝 司
理 事	高53-02-18	山 出 哲 史	理 事	高平18-03-29	其 田 詩 織	事 務 長	奈良高校職員	大 平 隆 造
理 事	高55-04-38	山 本 真 弓	理 事	高平18-09-14	福 岡 修太郎	教 頭	奈良高校職員	片 岡 衛
理 事	高56-01-22	柏 木 尚 美	理 事	高平19-03-03	五 味 信 之	教 頭	奈良高校職員	嶋 田 義 也
理 事	高57-04-10	堺 隆 司	理 事	高平19-04-14	三 橋 和 史	事務局長	奈良高校職員	小 南 良 子
理 事	高57-09-06	大 前 公 人	理 事	高平20-04-14	平 元 慎一郎			
理 事	高58-01-12	三 木 淳 照	理 事	高平20-04-29	坂 口 愛 美			
理 事	高59-01-40	風呂井 玲 子	理 事	高平21-05-08	木 谷 朝 陽			
理 事	高59-02-34	宮 本 江梨子	理 事	高平21-08-10	柴 田 浩 気			

宝相華会役員改選名簿（平成26年度）

役 職	会員番号	氏 名	役 職	会員番号	氏 名	役 職	会員番号	氏 名
会 長	高36-04-14	小 山 新 造	相 談 役	定29-02	安曾田 豊	常任理事	高51-07-36	山 和 一 彦
副 会 長	総04-174	久 保 勇	相 談 役	定31-40	和 田 晴 夫	常任理事	高54-02-02	大久保 昇 紀
副 会 長	高31-01-03	阿 部 洋 己	相 談 役	定51-15	藤 本 孝 幸	常任理事	高54-04-02	岩 井 宏 之
副 会 長	高35-09-39	小 西 静 子	相 談 役	通58-02	石 田 恒 夫	常任理事	定38-17	松 井 隆 雄
副 会 長	高35-02-43	松 本 武 彦	相 談 役	通平02-23	森 山 賀 文	常 任 理 事	定42-08	大 西 純 一
副 会 長	高36-01-35	藤 原 正 義	相 談 役	通平10-08	中 川 昭 雄	常 任 理 事	通平12-11	京 本 勝 弘
副 会 長	高46-05-10	江 島 和 哉	常 任 理 事	総04-機-04	下 西 巖	常 任 理 事	通平13-29	竹 本 二美夫
副 会 長	定36-17	藤 田 勝 美	常 任 理 事	高29-02-57	吉 村 善 郎	理 事	中10-021	奥 田 寛
副 会 長	通57-15	桑 原 秀 教	常 任 理 事	高31-05-30	林 秀 彦	理 事	中10-062	中 野 聡
顧 問	総04-342	中 村 公 巳	常 任 理 事	高33-02-46	松 岡 泰 夫	理 事	中12-066	中 西 克 行
顧 問	高31-08-48	藤 本 忠 彦	常 任 理 事	高35-03-48	森 崎 隆 弘	理 事	中16-068	竹 田 虎 治
会 計	高33-09-38	早 水 康 雄	常 任 理 事	高37-03-05	稲 葉 好 勝	理 事	中16-002	油 谷 義 郎
会 計	高43-04-44	田 村 理記子	常 任 理 事	高38-06-02	天 野 明	理 事	中17-041	角 矢 喜 昌
会 計 監 査	総02-137	末 廣 隆	常 任 理 事	高38-01-52	吉 岡 章	理 事	中17-088	中 野 重 宏
会 計 監 査	高39-02-18	清 水 睦 子	常 任 理 事	高39-05-36	橋 本 武 一	理 事	中18-055	西 川 信 孝
会 計 監 査	高42-01-03	上 杉 佳 夫	常 任 理 事	高39-06-19	倉 本 堯 慧	理 事	中19-056	薺 藤 忠 男
常任相談役	中15-090	西 浦 亮	常 任 理 事	高39-06-24	田 中 弘 毅	理 事	中19-064	鈴 木 啓 之
常任相談役	総02-225	早 川 和 男	常 任 理 事	高40-04-41	藤 田 和 利	理 事	中19-164	吉 川 昭 美
常任相談役	高28-02-08	植 原 一 光	常 任 理 事	高40-07-27	西 田 正 秀	理 事	中20-060	小清水 弘 一
常任相談役	高29-03-44	横 井 健 二	常 任 理 事	高41-04-53	米 田 通 男	理 事	中20-074	嶋 田 彰 治
常任相談役	高30-06-51	吉 岡 克 己	常 任 理 事	高41-10-23	沢 井 啓 祐	理 事	市03-111	高 天 紳 江
常任相談役	高39-06-05	上 田 貞 夫	常 任 理 事	高43-04-18	黒 田 有 紀	理 事	総04-546	渡 邊 清
常任相談役	高42-05-22	武 村 純 一	常 任 理 事	高43-09-20	瀬 川 雅 数	理 事	高29-02-36	豊 沢 忠 正
相 談 役	総01-009	井 岡 禎 子	常 任 理 事	高44-09-54	渡 邊 良 憲	理 事	高29-03-36	湊 俊一朗
相 談 役	高28-05-33	西 本 集 一	常 任 理 事	高44-03-01	赤 松 敬 安	理 事	高30-01-26	徳 田 明 信
相 談 役	高33-03-32	野 崎 充 亮	常 任 理 事	高45-06-06	今 中 孝 治	理 事	高30-07-16	北 森 勇 夫
相 談 役	高36-01-43	森 岡 正 宏	常 任 理 事	高47-03-16	倍 巖 良 明	理 事	高32-07-45	松 本 隆 三
相 談 役	高38-03-21	玉 置 一 弥	常 任 理 事	高48-06-12	橋 本 幸 一	理 事	高33-02-09	岩 井 将
相 談 役	高39-05-39	福 井 良 盟	常 任 理 事	高49-09-38	森 継 隆	理 事	高34-04-16	吉 岡 澄 代
相 談 役	高41-08-06	上 原 雋	常 任 理 事	高50-03-26	福 田 康 人	理 事	高34-05-01	生 島 武
相 談 役	高43-5-41	畠 真夕美	常 任 理 事	高50-09-04	植 島 幹 雄	理 事	高35-04-03	飯 田 裕 康

平成 26 年度大学入試合格状況一覽表

《国立大学》						京都市立芸術			1	1	立命館			69	101	170	
大学名		現役 過年 合計				京 都 府 立			2	2	龍 谷			7	7	14	
旭 川 医 科			1	1		京 都 府 立 医 科			1	1	大 阪 医 科			1	4	5	
北 海 道	3	4	7			大 阪 市 立			23	9	32	大 阪 工 業				1	1
東 北			1	1		大 阪 府 立			15	8	23	大 阪 薬 科				2	2
茨 城			1	1		神 戸 市 外 国 語				1	1	追 手 門 学 院			2		2
お茶の水女子			1	1		兵 庫 県 立			1	2	3	関 西			89	75	164
東 京	1	1	2			奈 良 県 立 医 科			3	3	6	関 西 外 国 語			3	1	4
東 京 学 芸						公 立 大 学 計			47	24	71	近 畿			16	27	43
東 京 工 業	1	1	2									摂 南				2	2
一 橋	1		1			《私立大学》						梅 花 女 子				2	2
横 浜 国 立			2	2		自 治 医 科						関 西 学 院			40	22	62
信 州	1		1			埼 玉 医 科				1	1	甲 南			1	1	2
岐 阜			1	1		デジタルハリウッド				1	1	甲 南 女 子			2		2
名 古 屋	1		1			青 山 学 院				1	1	神 戸 女 学 院			1	1	2
三 重	1	1	2			共 立 女 子			1		1	神 戸 女 子				1	1
滋 賀	1	1	2			慶 應 義 塾			1	6	7	武 庫 川 女 子			11	2	13
京 都	15	11	26			上 智			1	1	2	畿 央			5		5
京 都 教 育	1		1			昭 和 女 子			1		1	帝 塚 山			4		4
京 都 工 芸 繊 維	1	8	9			中 央				2	2	天 理			1		1
大 阪	33	19	52			東 京 農 業				1	1	奈 良 学 園				1	1
大 阪 教 育	5	1	6			東 京 理 科				6	6	天 理 医 療			1	1	2
神 戸	27	19	46			東 洋			1	1	2	京 都 看 護			1		1
奈 良 教 育	9	1	10			法 政			1		1	大 阪 物 療			1		1
奈 良 女 子	6	1	7			明 治			2	2	4	岡 山 理 科				1	1
和 歌 山	1		1			明 治 学 院			1		1	山 口 東 京 理 科				1	1
島 根			1	1		早 稲 田			6	5	11	私 立 大 学 計			431	408	839
岡 山			2	2		金 沢 医 科			1		1						
広 島			2	2		長 浜 バ イ オ				1	1	《短期大学・各種学校他》					
徳 島	2		2			成 安 造 形			1		1						
九 州	1	3	4			京 都 外 国 語			1		1	防 衛 医 科 大 学 校					
琉 球			1	1		京 都 産 業			1	1	2	防 衛 大 学 校				1	1
国 立 大 学 計	111	84	195			京 都 女 子			24	4	28	武 庫 川 女 子 大 短 大 部			1		1
						京 都 薬 科			3	3	6	専 門 学 校			1	4	5
《公立大学》						京 都 橘			1		1						
国 際 教 養			1	1		同 志 社			102	113	215						
首都大学東京	1		1			同 志 社 女 子			27	6	33						